

植 物 名		栽培場 (注)	展示開始時期 (上:上旬 中:中旬 下:下旬)										
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
Schomburgkia	brysiana	※	D				下						
Stanhopea	graveolens		E						下				
Stanhopea	saccata	※	E						中				
Stenocoryne	racemosa		B									上	
Stenoglottis	longifolia		C									上	
Symphyglossum	sanguineum	※	B			中							
Trichoglottis	latisepala		E							上			
Trichoglottis	philippinensis		A*						中				
Trichoglottis	philippinensis var. brachiata		A*				下		中				
Tuberolabium	kotoense		C									下	
Vanda	merrillii	※	A*							上			
Xylobium	ornatum		C										上
Zygopetalum	crinitum	※	E					中					
Zygopetalum	intermedium	※	E	下									

ソーセージノキ開花記録

永井親雄・柴田昌男

大温室内に植栽している *Kigelia pinnata* (ソーセージノキ) が、開花し、結実処理を行ったので報告する。

1 概要

1997年、種苗会社から樹高1.8mの株を導入し、大温室丸池前に植栽した。現在の樹高は、約3mで最大幹直径は12cmである。

2 開花

2002年6月に剪定した枝先付近から花序が展開し始め、7月2日夜1番花が開花した。花序は下垂し、3段×3花で計9花あり、中段の1花が最初に開花し、同じ日に1~3花が開花した。天候にもよるが、夕方から夜に咲き始め、翌朝には花卉が落ちていた。

3 交配とホルモン処理

兵庫県立フラワーセンターでの処理事例を参考に、開花翌日に交配し、さらに翌日ホルモン処理を行った。

①交配

落下した花卉に雄しべがあり、その花粉を雌しべの柱頭に付けた。この時、二つに分かれた柱頭が花粉付着により、閉じるのが確認できた。複数の花がある場合は、他花の花粉を使った。注意することとして、落ちた花卉・雄しべの花粉をナメクジが全て食べ、花粉がない場合もあったので、地面に落下させない工夫が必要である。今回は、逆さにした傘を枝につけ、受けるようにした。

②ホルモン処理

市販のジベラ錠から作った液を、交配翌日、上向きの萼片一杯に入れた。液は、2~3日後に除去した。濃度は、250ppm、400ppmで行った。

なお、同センターによると、ホルモン処理をしない場合、奇形果になるとのことであった。

4 結果

9花すべて、着果しなかった。落ちた花は、花冠と花柄が離合したもの、花軸と花柄が離合したものがあつた。



写真1. 雌しべと4本の雄しべ

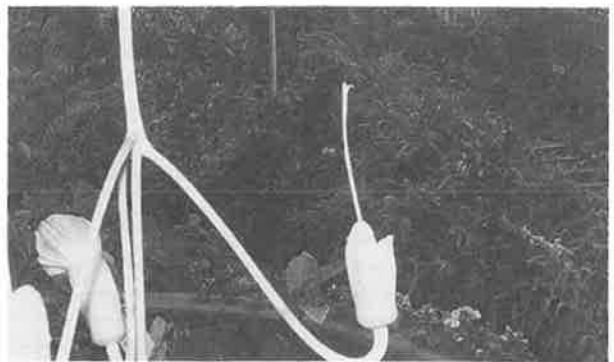


写真2. 雌しべの柱頭が二つに分かれている この部分に花粉を付ける。

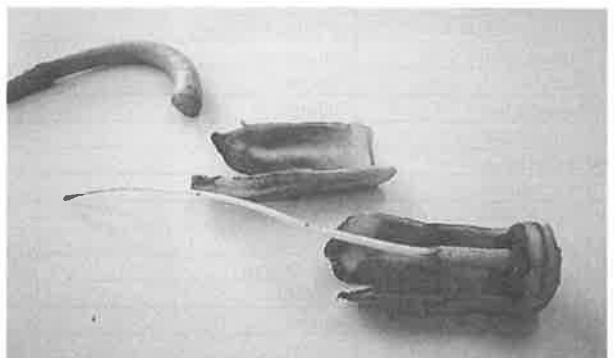


写真3. 落ちた花冠、花柄と萼片内部の様子